

症状の説明（知）



精神症状の分類一覧①

(精神機能の3側面である「知・情・意」と自我、意識、巣症状を用いる)

知	知覚の異常	錯覚	
			幻覚
思考の異常	思考形式の異常		思考制止（思考抑制）、 思考途絶、観念奔逸、滅 裂思考（支離滅裂、思考 の解体）、粘着（保続）、 迂遠
	思考内容の異常		強迫観念、心気症、妄想
記憶の異常	記銘障害		
	想起障害		
見当識の異常	見当識障害		
知能の異常	精神遅滞（知的障害）		
	認知症		

精神症状の分類一覽②

(精神機能の3側面である「知・情・意」と自我、意識、巢症状を用いる)

情	感情の量的異常	気分高揚、多幸的、抑うつ、情動麻痺、感情鈍麻
	感情の調節異常	情動失禁、易刺激的（易怒的）、両価的（性）
意	欲動の異常	食欲／性欲／睡眠の異常、自傷（自殺企図）
	意欲の量的異常	精神運動興奮、意欲減退
	意欲の調節異常	強迫行為、行為心迫

精神症状の分類一覧③

(精神機能の3側面である「知・情・意」と自我、意識、巣症状を用いる)

自我	能動意識の異常	離人症、させられ(作為)体験
	自我同一性意識の異常	交代人格(多重人格)
意識	意識混濁	
	意識変容	
	意識狭窄	
巣症状	失語	
	失認	
	失行	
	前頭葉症候群	
	側頭葉症候群	
	頭頂葉症候群	
	後頭葉症候群	

精神症状 「知」①

知覚の異常

錯覚：現実存在する対象を誤って知覚すること

幻覚：対象がない知覚のこと

感覚の種類による分類

幻聴：意識清明時の言語性幻聴が臨床上重要（統合失調症）

幻視：せん妄などの意識障害、アルコール依存症の小動物幻

視

幻臭：統合失調症（被害妄想と結びつく）、てんかん

幻味：統合失調症（被毒妄想）、てんかん

体感幻覚：統合失調症、器質性精神障害（「脳ミソが腐っている」など異常な身体感覚）

精神症状 「知」②

思考の異常

思考制止：思考進行が遅くなり、着想も貧困になっている状態
(抑うつ状態)

思考途絶：思考進行が途中で突然停止する状態 (統合失調症)

観念奔逸：思考進行が速く、話題が飛躍するため理解困難 (躁状態)

滅裂思考 (思考の解体)：個々の言葉の間に意味関連が認められない状態 (統合失調症) ※録音あり

粘着 (保続)：思考が1ヶ所に停滞し、別のテーマに移れない状態 (脳器質疾患、てんかん)

迂遠：細かい点にとらわれて、回り道をしながら話の目的に達する状態

精神症状 「知」③

思考の異常

強迫観念：本人も不合理と分かっているのに追い払うことができない考え（強迫性障害、統合失調症）

恐怖症：ある特定の対象に対して過度の恐怖を絶えず抱く状態

心気症（≠心身症）：生理的現象や身体異常にとらわれ、執拗に不調を訴える状態（神経症、抑うつ状態）

妄想：「病的な心理的基盤から生じた誤った確信」で、特徴として、比類なき主観的確信、訂正不能性、不合理な内容、の3つがある（「突飛さ、訂正不能、体系化」が臨床的には重要）

内容による分類

被害・関係妄想：注察、被毒、追跡、物盗られ、嫉妬、つきもの妄想（統合失調症の被害妄想が重要）

微小妄想：貧困、罪業、心気、虚無妄想（うつ病）

誇大妄想：血統、宗教、恋愛等に関する妄想（躁病）

精神症状 「知」④

記憶の異常

記銘・保持・想起に分けて覚える。

記銘：新たに知覚し、体験したことを記憶の中に取り入れること

保持：記銘したことを保ち続けること

想起：保持したものを思い出すこと

再認：想起されたものが記銘されたものと同じであると確認すること

記銘障害：特に認知症（外因性で認める。アルツハイマー病等では重度）でよく見られる。新しいことは記銘できないが、古い出来事は思い出せる

想起障害（健忘）：全健忘（ある期間すべて）と部分健忘（ある期間でも部分的には可能）、逆向健忘（障害時点より以前のことを忘れる）と前向健忘（意識回復後のことを忘れる）

見当識の異常

見当識：時間、場所、人、状況などに対する見当づけを行う能力の障害

精神症状 「知」⑤

知能の異常

精神遅滞（知的障害）：以下の3点を特徴とする。1つの疾患単位ではない。

- ・ 先天的あるいは精神発達途上の早期に、何らかの原因で精神発達が妨げられた

- ・ 知的機能が平均より低い
- ・ 社会適応が困難

→代表的疾患：染色体異常（ダウン症等）、代謝異常（フェニルケトン尿症等）、胎生期異常

認知症：獲得された知能が何らかの原因によって非可逆的に低下した状態。

→代表的疾患：アルツハイマー型認知症、脳血管障害、レビー小体型認知症、ピック病、パーキンソン病（固縮）、進行麻痺

講義は以上で終了です。おつかれさまでした。

症状の説明（知）

